

群 教 セ	G12 - 01
	平 15.214集

# 思いをふくらませ、対象とのかかわりを 深めていく生活科の指導

—— 「ポートフォリオ」による見取りと支援を通して ——

特別研修員 長山 稔子 (太田市立宝泉東小学校)

## 主題設定の理由

国際化、情報化、科学技術の発達、少子高齢化社会への移行、ライフスタイルの変容、価値観の多様化など、新たな時代の流れの中で、子どもを取り巻く環境は、急速にしかも広範に変化しつつある。このような社会の中で子どもたちは、人間関係が希薄化し地域の人々との望ましい人間関係が築きにくくなり、季節を感じ自然とふれあいながら生活することも少なくなっている。

クラスの子どもたちを見ても、交友関係を築くことや地域の人々とあいさつを交わすことなどが苦手な子どもも見られる。また、自然の中で子ども同士で遊ぶ姿もあまり見られず、自然とのかかわりも少なくなっている。

このような子どもたちに、これまでも身近な人々や社会及び自然とのかかわりをもたせ、自分自身や自分の生活について考えさせてきた。そして、子どもたちが身近な人々や社会及び自然と直接かかわる活動や体験を一層重視した学習を行い、子どもたちが自分を取り巻く環境に働きかけ自分なりの思いや願いをもち、試行錯誤しながら、その実現に向けて課題を解決していく創造的な学習活動が行えるように心がけてきた。

しかし、子どもたちの実態は様々であり、対象と出会う中で生まれた思いや願いをうまくふくらますことができず、よりよく実現したいという意欲が長続きしないために、粘り強く試行錯誤しながら対象とかわることのできない子どもも見られる。

そこで、子どもたち一人一人の思いをふくらませ、対象とのかかわりを深めていくことができるようにポートフォリオを取り入れ、一人一人の子どもを見取り、個に応じた支援を行うことが有効ではないかと考えた。

ポートフォリオには、単元を通しての学習材を個々にまとめ残していく。対象物と出会ってからの子どもたちが、どんなことを思い、どんなことに気付き、どんな課題追究を行い、何を学び取ったのかが分かるような学習歴を単元を通して残しておきたいと考えた。そうすることにより、教師はそれぞれの過程における子ども一人一人の学習の流れをよりの確に見取ることができ、一人一人の児童理解も深まり、より効果的な支援ができると考えた。

「ふれる・つかむ」過程においては、対象への興味・関心を高め、しっかりとした自分自身の思いや願いをもつようにしたい。「はたらきかける」過程においては、意欲の継続化を図るとともに、知恵を駆使し試行錯誤しながら粘り強く取り組めるようにしたい。また、「ふりかえる」過程においては、子ども自身に対象とのかかわり方や課題追究の過程を見つめ直させ、活動を振り返り、気付きを顕在化し考えを深め、対象とのかかわりを深めることができるようにしたいと考えた。

さらに、単元の目標や身に付けたい資質や能力を見取るために、評価計画を立て、評価の改善を試みて、効果的な支援が行えるようにしたいと考えた。

以上のように本研究では「思いをふくらませ、対象とのかかわりを深めていく生活科の指導」を主題とし、ポートフォリオを取り入れた見取りと支援を行いたいと考えた。

## 研究のねらい

ポートフォリオを取り入れ、一人一人の思いや気付きを見取り個に応じた支援を行うことは、思いをふくらませ、対象とのかかわりを深めさせる上で有効であることを実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 「ふれる・つかむ」過程において、学習のめあてを表現したポートフォリオから、一人一人の思いや願いを見取り、個に応じた支援を行うことにより、自分なりの考えや希望、願望を明確にし、活動への意欲をもつことができるであろう。
- 2 「はたらきかける」過程において、取組の様子や気付いたこと・思ったことが表現してあるポートフォリオから、一人一人を見取り、個に応じた支援を行うことにより、試行錯誤しながら自己実現のために積極的に取組ことができるであろう。
- 3 「ふりかえる」過程において、これまでの自分の学習の足跡を振り返り、再構成したポートフォリオから、一人一人を見取り、個に応じた支援を行うことにより、気付きを顕在化し、考えを深め、対象とのかかわりを深めることができるであろう。

## 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 「思いをふくらませ、対象とのかかわりを深めていく」とは

子どもたちは、対象と出会いふれあった時、何かしら思ったり感じたりしている。しかし、子どもによっては、その思いが弱かったり漠然としていたりして、自分の思いをしっかりと自覚できていない子どもも見られる。そこで、自分なりの考えや希望、願望などをしっかりと自覚させ、その思いをもとに自己実現に向かわせる必要があると考えた。また、一人一人がもった思いが強ければ強いほど意欲が増し、対象へのかかわり方が積極的になり、課題解決のために知恵を駆使し、試行錯誤しながら対象物とのかかわり、粘り強く自己実現に向けて取り組むことになると思う。「思いをふくらませ、対象とのかかわりを深めていく」姿とは、このように、対象物と出会いふれあう中でもった自分なりの思いをしっかりと自覚し、知恵を駆使して対象とのかかわり、課題追究し、粘り強く自己実現を図る姿のことである。

#### (2) 一人一人を見取るための「ポートフォリオ」とは

「ふれる・つかむ」過程では、ポートフォリオとして、一人一人の思いや願いを基に、学習のめあてや学習の見通しができるようなもの、「はたらきかける」過程では、ポートフォリオとして、課題追究に向けて一人一人の子どもがどんな取組方をし、どんな思いをもったのか表現させたもの、「ふりかえる」過程では、単元全体の自分の取組方を振り返り、どんなことを思ったのか分かるようなものを見取り、支援したいと考えた。具体的には、単元を通して学習の足跡が分かるようにファイルしてきたポートフォリオを再構成をさせ、自分自身の取組方を振り返れるようにするとともに、自分自身のよさや友達のよさにも気付かせたいと考えた。

また、ポートフォリオとして収集するものは、何でも収集しておけばよいというものではないと思う。どんな物を残しておくかよいか単元全体を見通し、計画を立てておく必要を感じる。そこで、教師が計画的に必要なと思われる所で気付きや思いを絵や文で表現させたり、自己評価や相互評価カードを取り入れたたり、写真等を取り入れたたりしていきたい。

(3) 「個に応じた適切な支援」とは

単元の評価規準や活動展開の評価項目をもとに、ポートフォリオから見取る事柄を整理し、それをふまえて支援したいと考えた。また、支援の方法としては、効果的な支援が行えるように、支援計画表を作成し、活動の特性に応じた例示や助言、人との交流、気付きの比較・関係付け・特徴付けなどを必要に応じて取り入れたいと考えた。

さらに、子どもの学びの過程である単元中に、ポートフォリオを媒体として、子どもと教師で「対話」する時間を設け、子どもをよりよく理解し、適切な支援ができるようにするとともに、子ども自身も、自分の活動の様子を振り返りながら活動を進めることができるようにしたいと考えた。

また、ポートフォリオを再構成したものを見せ合うなどの交流の場を設定し、感想をカードに書いて伝え合う場を設定する。それは、友達の考えにふれることで、新たな考えを知ることになり、さらに考えが広がり深まり、対象とのかかわりも深まると考えたからである。また、自分や友達の頑張りや成長の様子をとらえることにもなり、互いによさを自覚し合うことにより、成就感や満足感を味わうことにもなり、さらに意欲も高まるものと考えた。その際、教師は、単元を通しての評価規準や評価項目をしっかりともち、それに沿って一人一人を見取り、よりよい方向に支援し、学習を通して身に付けたものをはっきりと子ども自身が確かめられるようにする必要があると考えた。

2 研究の方法

(1) 授業実践計画

対 象	太田市立宝泉東小学校 2年 1組 34名	期 間	平成15年 9月	時 間	12時間
授業者	特別研修員 長山 稔子	単元名	うかべてあそぼう		
抽出児	A男：いろいろな物に興味をもちやすいが、意欲が継続しにくい。活動的な面を生かしつつ対象への思いを強め、かかわりを深められるようにしたい。				
抽出児	B子：学習への取組方が真面目で自分なりの考えをもつこともできるが、友達との交流となるとやや消極的な面が見られる。自信をもって友達とかかわりながら学習を進められるようにしたい。				

(2) 検証計画

検証項目	検 証 の 観 点	検 証 方 法
見 通 し 1	「ふれる・つかむ」過程において、プールに浮かべて遊べそうな物や作るための材料などについて話し合い、ウエビングで表したり、自分の作りたい物を記入したカードから、一人一人を見取り支援したりすることは、思いや願いを明確にし次の活動への意欲をもたせる上で有効であったか。	・ウエビング ・作りたい物カード
見 通 し 2	「はたらきかける」過程において、取組の様子や気付きや思いを記入したカード等から、一人一人を見取り支援することは、自己実現に向けて創意工夫を行わせ、対象と積極的にかかわらせる上で有効であったか。	・こんな を作るカード ・振り返りカード・今日の頑張り ・友達のすごい所・写真・VTR・ぼくのわたしのアイディア
見 通 し 3	「ふりかえる」過程において、これまでの自分の学習の足跡を振り返り、ポートフォリオを再構成した絵本等から、一人一人を見取り支援することは、気付きを顕在化し、考えを深め、自分のよさや友達のよさに気付き、対象とのかかわりを深める上で有効であったか。	・再構成した絵本 ・よかったよカード

研究の展開

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い検討する。

- 1 単元名 「うかべてあそぼう」

## 2 単元の考察

本単元は、学習指導要領生活編の内容(5)(6)にあたり、水に浮かべて遊ぶ物を身近な材料を使って工夫しながら製作し、その製作物を用いて遊びを創り出し、みんなで協力しあって楽しく遊び、夏という季節を楽しむことをねらいとしている。夏という季節の特徴を利用して身近にある物を活用して友達と工夫して製作したり、遊びを創り出ししたりする活動を行うことは、自分の手で作り出したり遊んだりすることの楽しさや工夫することのおもしろさ、さらには、できあがった時の満足感や成就感を味わわせることができる価値あることと考える。ここでは、それぞれの過程における子どもの思いや取組の様子が分かるようなポートフォリオを一人一人を見取る手立てとして活用し、自己実現に向けた支援を工夫する。そうすることにより、材料の活用や製作方法、遊び方等の考えが深まり、友達とのかかわりを深め、自分自身への自信を強めるとともに、対象とのかかわりも深まると考え、本単元を設定した。

## 3 目標及び評価規準

### 目 標

夏という季節の特徴を利用して、水に浮かべて遊ぶ物を工夫しながら製作したり、遊びを創りだしたりする活動を通して、遊びや遊ぶものを工夫して創る楽しさや自他のよさに気づき、友達と協力しあって夏を楽しむことができる。

### 評価規準

評価の観点	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏という季節の変化に気づき自分なりに活用して生活を楽しくしようとしている。</li> <li>材料を集め水に浮かべて遊ぶ物を作り上げようとしている。</li> <li>友達と一緒に遊びを創り出し楽しく遊ぼうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏という季節の変化に気付くとともに、夏の特徴を知り、それを活用して生活を楽しくしようとしている。</li> <li>材料集めを進んで行き水に浮かべて遊ぶ物を意欲的に作り上げようとしている。</li> <li>友達と協力しあって進んで遊びを創り出し楽しく遊ぼうとしている。</li> </ul>
活動や体験についての思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>水に浮かべて遊ぶ物を、材料や作り方を工夫して作ることができる。</li> <li>楽しく遊ぶための方法を工夫して、遊びを創り上げることができる。</li> <li>楽しかったことや思ったことなどを自分なりの方法で表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水に浮かべて遊ぶ物を、材料や道具の特性を生かし作り方を工夫して作ることができる。</li> <li>楽しく遊ぶための方法をいろいろ工夫して遊びを創り上げることができる。</li> <li>楽しかったことや思ったことなどを自分なりの方法で分かりやすく表現することができる。</li> </ul>
身近な環境や自分についての気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な材料を活用し工夫して遊ぶ物を作り上げる楽しさに気付くことができる。</li> <li>夏の遊びの楽しさや工夫して友達と遊ぶ楽しさに気付くことができる。</li> <li>自分のよさや友達のよさに気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを生かしながら身近な材料を活用し工夫して遊ぶ物を作り上げる楽しさに気付くことができる。</li> <li>夏の遊びの楽しさや工夫しながら友達と協力しあって遊ぶ楽しさに自ら気付くことができる。</li> <li>自分のよさや友達のよさを自ら見つけ気付くことができる。</li> </ul>

## 4 指導計画（全12時間予定）詳しくは資料編参照

過程	時間	学 習 活 動	見通し
ふ れ る ・ つ か む	1	学校のプールを使って夏を楽しく過ごすための方法を話し合う。 「浮かべて遊ぶ物を作り、みんなと一緒にあそぼう」というめあてをもつ。 自分たちが作れそうな浮かべて遊ぶ物には、どんな物があるのか話し合い、今後の活動の見通しをもつ。 個々に作りたい物を考え、カードに作りたい物とその理由を書く。	見通し1

は た ら き か け る	2	何が分かれば作れるのか話し合い、水に浮かぶ物を作るための計画を立てる。 こんな を作ろう！	見通し 2
	4	計画に基づいて、水に浮かべて遊ぶ物を工夫したり試したりしながら製作する。 活動時間ごとに振り返りカードに記入する。 自分のよかったアイデアや友達のすごいところなどを発表しあう。	見通し 2
	1	自分たちが作り上げた物を使って、楽しく遊ぶための計画を話し合って立てる。 水に浮かべて遊ぶ大会をひらこう！	見通し 2
	1	計画に基づいて大会を開き、友達と協力しあい楽しく遊ぶ。	見通し 2
ふか りえ る	3	自分たちの活動を振り返り、これまでにファイルしたものを再構成し、絵本作りをする。	見通し 3

### 研究の結果と考察

1 「ふれる・つかむ」過程において、プールに浮かべて遊べそうな物や作るための材料などについて話し合い、ウエビングで表したり、自分の作りたい物を記入したカードから、一人一人を見取り支援したりすることは、思いや願いを明確にし、次の活動への意欲をもたせる上で有効であったか

夏という季節に目を向けさせ、その特徴を活用して生活を楽しくしようという気持ちを高めるために、今の季節を尋ね、季節の特徴について話し合った。子どもたちからは、当然のごとく「夏」という答えが返り、夏の特徴としては「あつい」「薄着になる」「水遊びが気持ちいいよ」などいろいろな意見が出された。そこで、海で遊んだことを想起させ「大好きなプールをもっと楽しくする方法ってあるかな。」と、投げかけてみた。すると「海で遊ぶ時のように自分たちが乗って遊べるようなものがあると楽しいな。」「自分たちで水に浮かべて遊ぶものを作って遊びたいな。」という意見が大勢の子どもから出され、A男やB子をはじめクラス全員が賛成し、一人一人が「浮かべて遊ぶ物を作りみんなで一緒に遊ぼう」という学習のめあてをもつことができた。

資料1 ウエビングの写真



学習のめあてがもてた子どもたちに見通しをもたせるために、水に浮かべて遊べそうな物にはどんなものがあるのか話し合った。そして、出された意見を教師が分かりやすいようにウエビングでまとめていった(資料1)。

その結果「いかだ」「船」「ボート」などが浮かべて遊べそうであることや材料としてペットボトルや牛乳パック、発砲スチロール、木片などが使えそうであることがわかった。話し合っている時の子どもたちの表情は、どの子も真剣な表情で、考えたり意見を言ったり聞いたりしていたので、水に浮かびそうな材料をどの子も興味をもって意欲的に考えることができたと思われる。

また、ウエビングを全員で見つめ直す時間をもつことで、出された意見の吟味をすることができた。

A男からは「ペットボトルはふたをしないと水が入って沈んでしまうよ。ふた付きじゃないとだめだよ。」という意見が出された。このことから、意欲的に材料について考えている姿が見られた。

B子からは「ペットボトルの大きさは小さいのよりも大きい方がよく浮かぶと思います。」という意見が出された。その訳を聞いてみると「大きい物の方が空気がいっぱい入るから。」ということであった。水に浮かべるための条件について、生活経験と関連させて考えた結果、課題解決の見通しをもつことができたと思われる。

自分の作りたいものをカードに書き込む場面では、自分なりの思いを一人一人がもち、作りたい物とその理由をどの子も書くことができた。資料2の作りたい物カードから、ただ漠然と丈夫だと思うので船が作りたいと読み取れた。そこで「丈夫だと思う」とはどういうふうに丈夫なのか詳しく聞くためにポートフォリオの対話を取り入れた。その結果、B子はみんなが乗れるぐらい丈夫な船を作りたいと思っていること、みんなで乗って楽しみたいという思いをもっていることが分かった。そこで、みんなで乗れる船の形について考えさせてみた。すると、B子はいかだを思いつき、次への活動への意欲をもつことができた。

資料2 B子の作りたいものカード

作りたいもの	お け
ふね ↓ いかだ	「ふうふだと思 うから、 みんなでのてあそ ぶと楽しいから。」


2 「はたらきかける」過程において、取組の様子や気付きや思いを記入したカード等から、一人一人を支援することは、自己実現に向けて創意工夫を行わせ、対象と積極的にかかわらせる上で有効であったか

活動の見通しをもたせるために、作りたい物の計画を立てることにした。水に浮かぶ物を作るための計画作りでは、計画カードにどんなことを記入したらよいのか全体で話し合った。

資料3は、A男の計画カードである。この計画カードには材料がいろいろ記入してあったので、ポートフォリオの対話を取り入れた。その結果、A男は材料に迷いのあることが分かった。A男には、納得して材料が使えるように、試す活動を行うことを勧めるという支援を行った。その結果、実際に試す中で自分の思いを深め、一番丈夫でよく浮かぶという理由でペットボトルを選択していった。

製作活動においては、個々のポートフォリオや普段の子どもの様子から支援計画を立てて、支援に当たることにした。資料4は支援計画表からの抜粋である。その結果、この活動では誰がどんな支援を必要とするのかということが考えてあるので、時間を有効に使用し、支援が必要な子どもたちに効果的な支援を行うことができた。

資料3 A男の計画カード

こんなボウモンの ボートを作ろう！	
2年 / 国 / 名まえ	
1. 作りたいものの絵をかこう	
	
2. ひつよりなざいりようやどうぐ	
○ペットボトル	○はきみ
○プラスチック	○ボンド
○ガムテープ	
○ボウモンロール	



## 資料6 絵本作りの振り返りの視点

製作した物とその理由	使用した材料とその理由	製作する時に工夫したことや頑張ったこと
つくり上げた時の気持ち	浮かべて遊ぼう大会の感想	単元を通して気付いたことや思ったこと

このような視点を与えることにより、子どもたちはポートフォリオを再構成しやすくなり、絵本として何を書いていくか明確になったと考える。

A男の絵本には、次のようなことが書かれていた。

ざいりょうはいろいろまよいました。ためしたらペットボトルがよくうかんでしょうぶだったのでペットボトルをたくさんつかいました。ポケモンポート作りをしながらためしたり、くふうしたりすると、どんどんいいものになることがわかりました。みんなの力はすごいんだなあと思いました。ともだちともまえよりなかなよくなってうれしかったです。ポケモンポートを作ってほんとうにたのしかったです。また、うかべてあそべるといいなおもいしました。



B子の絵本には、次のようなことが書かれていた。

作る時にこまったことは、つかうざいりょうです。はっぱうすチロールにしようかな？でもためしてみたらこわれやすかったのでやめました。こわれた時細かいごみがバラバラおちてかたづけるのがたいへんでした。そこで、ペットボトルにしました。ペットボトルは水によくうかぶので、つかってよかったです。くふうしたのはペットボトルのつなぎ方です。ふたとふたとをあわせてみたらとれそうだったのでうしろとうしろを合わせました。ガムテープの色づかいもくふうしました。しあげた時の気持ちは、みんなで力を合わせてくふうすれば、ペットボトルでこんなにすごいものができるんだな、素晴らしいなあと思いました。みんなでいかにだにのれた時は、うれしくてたまりませんでした。



絵本作りの際A男もB子も、振り返りの視点 から までの項目を順に振り返り、文章化していたが、その時の自分の思いがあまり記入していなかったので「その時の自分の気持ちを詳しく書くともっと分かりやすくなると思うよ。」と助言した結果、二人とも自分の思いをまじえた絵本を作ることができた。そしていかに作りを通して、実際に試すことで何が材料として適材であったか、ペットボトルのつなぎ方はどうすると丈夫になるのか、知恵を出し合い友達と協力し合うことですばらしい物が作れ、楽しく遊ぶことができるということを実感したことが見取れた。これは、絵本に表すことにより気付きが顕在化し考えが深まり、対象とのかかわりが深まっていった姿であると思われる。

出来上がった絵本は、教室に展示し、自由に読み合い感想等をカードに書いて渡せるようにした。そうすることにより、子どもたちは友達の絵本を読み、友達の頑張ったところや工夫した所を互いに見つけ、感想を書くことができた。また、友達からよかったことや頑張ったことを認められることで自分自身のよさを自覚し自信もついたように思われる。

このようなことから「ふりかえる」過程において、これまでの自分の学習の足跡を振り返りポートフォリオを再構成した絵本等を活用し、一人一人を見取り支援したことは、気付きを顕在化し、考えを深め、自分のよさや友達のよさに気付き、対象とのかかわりを深める上で有効であったと思われる。

### 研究のまとめと今後の課題

意図や指導性を発揮して計画的なポートフォリオを作成させることにより、一人一人の思いや気付きが見取りやすく、個に応じた効果的な支援が実行しやすくなった。そのため、一人一人の思いをふくらませ、対象とのかかわりを深めさせる上で有効であったと考える。

毎回全員のポートフォリオを見取ってきたが、見取る上でも支援計画のように見取る計画を立て、努力を要する子から見取るなどの工夫をし、効率的に見取る必要があると感じた。

- <参考文献> ・佐藤真編著『基礎からわかるポートフォリオのつくり方・すすめ方』東洋館出版社(2001)  
・西岡加名恵著『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化(2003)